

福祉活動者へのヒアリング調査結果概要

- ◇対象：【個人】93名
自治会長-28・自主防災会長-22・民生委員-21・主任児童委員-2
単位老人クラブ会長-20
【団体】53団体
A.地域福祉関係団体-3 B.福祉ボランティアグループ-9
C.地域福祉活動グループ-32 D.福祉当事者組織-6
E.福祉関係団体-3 **合計122人**（重複24名除く）

◇調査期間：令和2年8月17日（月）～9月1日（火）

◇調査方法：【調査票の配布】郵送
【調査票の回収】郵送（ポスト投函）

◇調査内容：

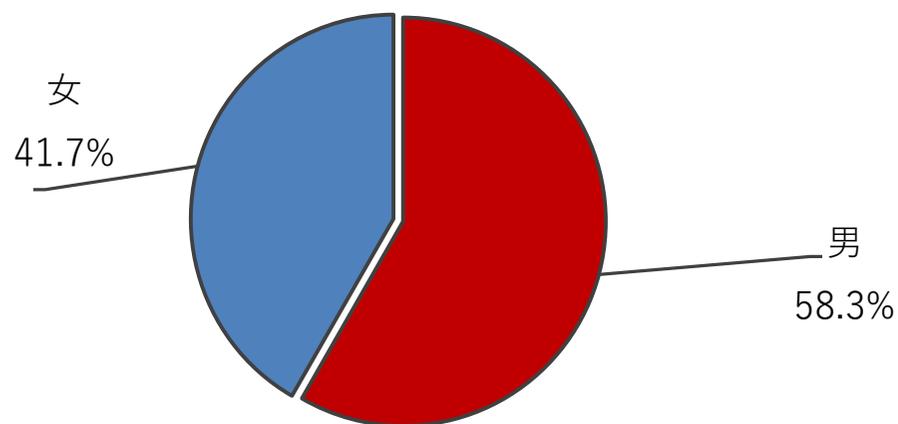
- ☑問 1～6 / ボランティアや福祉活動の経験や内容
- ☑問 7～13 / ボランティアや福祉活動を通じ感じる課題や要望
- ☑問14～17 / 地域福祉活動を進める環境と日常生活を通じ支援対象者や困りごと
- ☑問18 / 1次計画の課題への対応策や社会福祉協議会へのご意見（ご提案）



◇回答率：**78.6%**（回答数96票 / 配布数122票）

回答者の性別

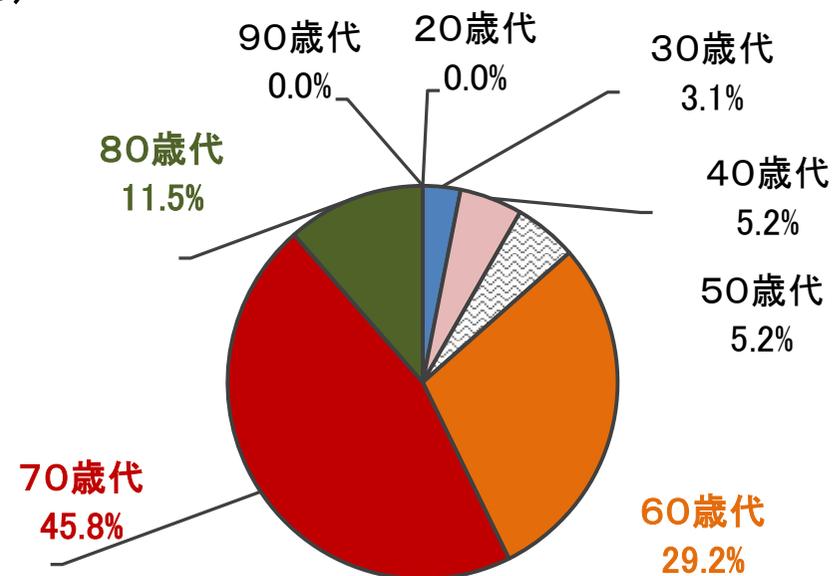
(N=96)



⇒回答者の6割が女性



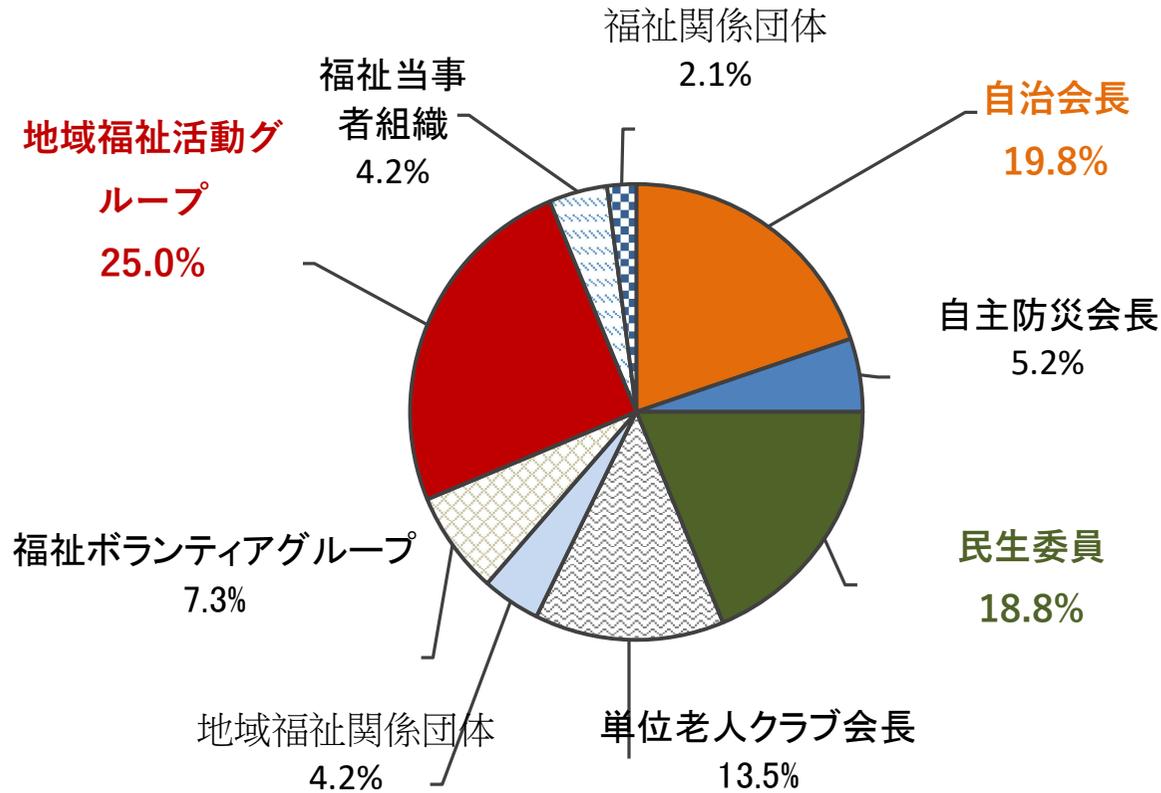
回答者の年代



⇒回答者の86.5%が60歳以上の活動者。



回答者の所属区分



	団体区分	団体の例
A	地域福祉関係団体	福祉活動員協議会、愛育委員会・栄養委員会
B	福祉ボランティアグループ	手話・要約筆記・朗読・パソコン・絵手紙・日曜大工・CC麻雀・運転・暮らしの応援団
C	地区福祉活動グループ	ふれあいいきいきサロン24 給食ボランティア8
D	福祉当事者組織	ブロンズクラブ(独居高齢)、身体障がい者福祉協会、つばさの会(知的障がい家族)、ほのぼの会(精神障がい家族)、木の実会、保幼小中連絡協議会
E	福祉関係団体	婦人会、福祉関係NPO、シルバー人材センター等
F	地縁組織	自治会・町内会長、自主防災会長

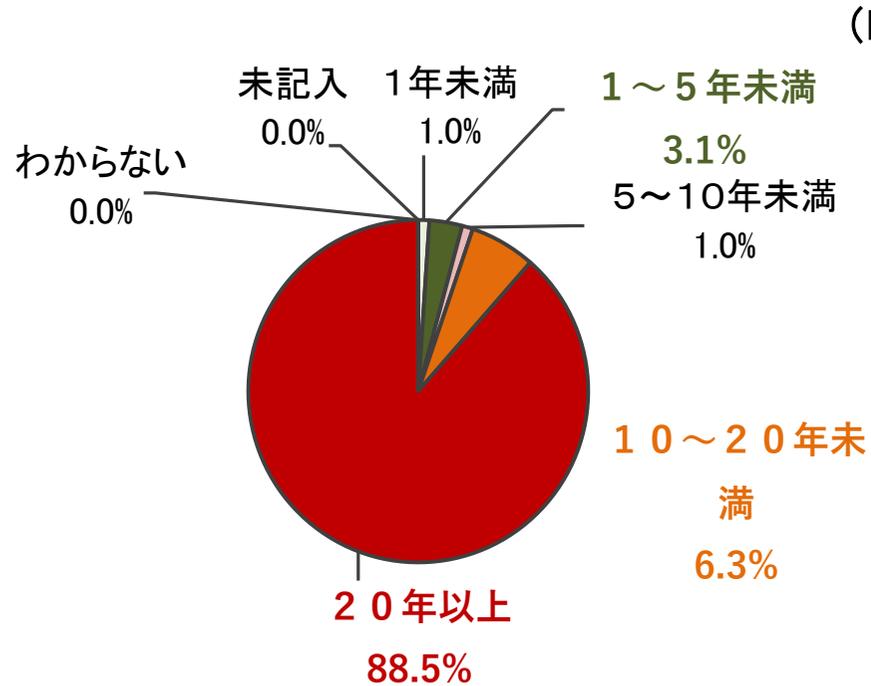
☒問 1～6

ボランティアや 福祉活動の経験や内容

- ☒ 回答者の属性を把握し、各設問分析するための基礎数値とする。

問1. 町内に何年お住まいですか。

<1つに〇>

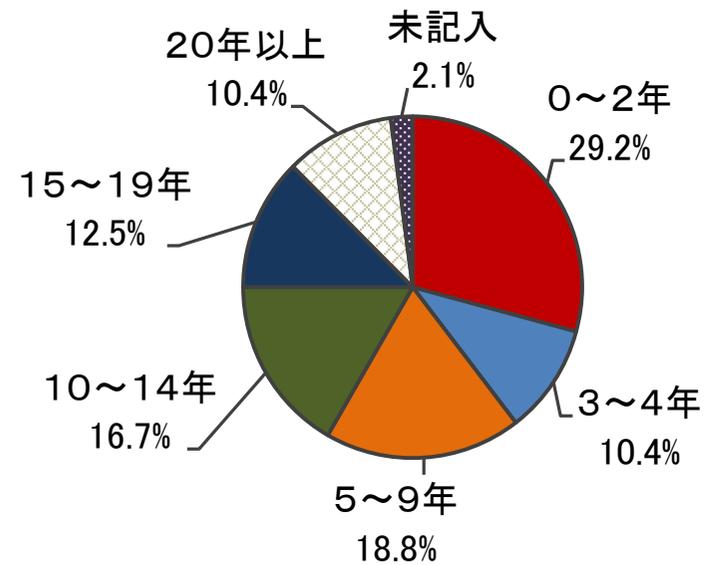


回答者の約9割が20年以上町内に居住



問2. ボランティアや福祉活動(地区役員)を何年続けていますか。<1つに〇>

<1つに〇>

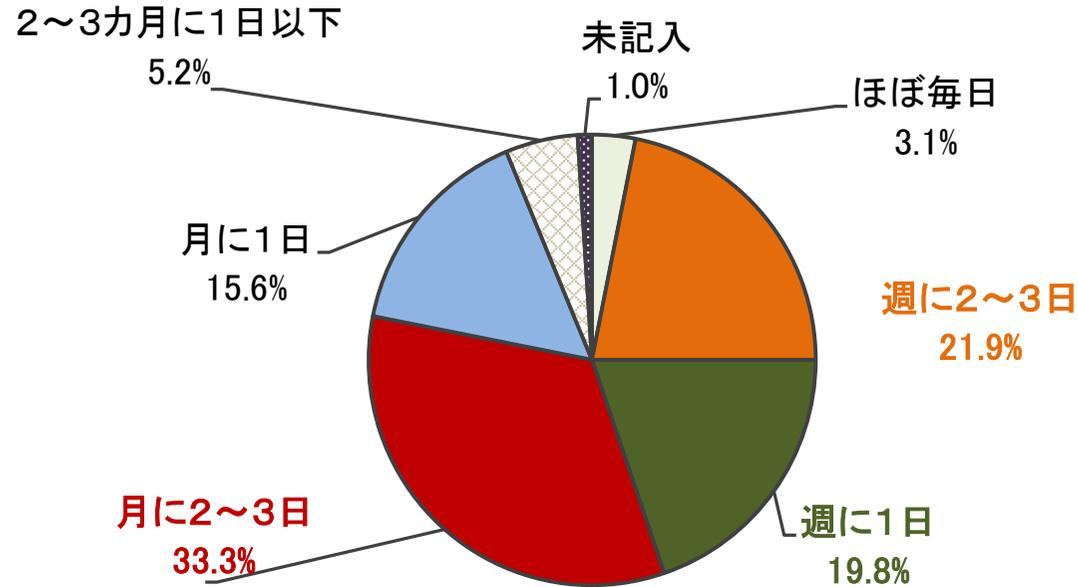


回答者の約7割が3年以上の活動者



問3 ボランティアや福祉活動（地区役員）者として、1か月におおよその活動日数を教えてください。〈1つこ〉

(N=96)

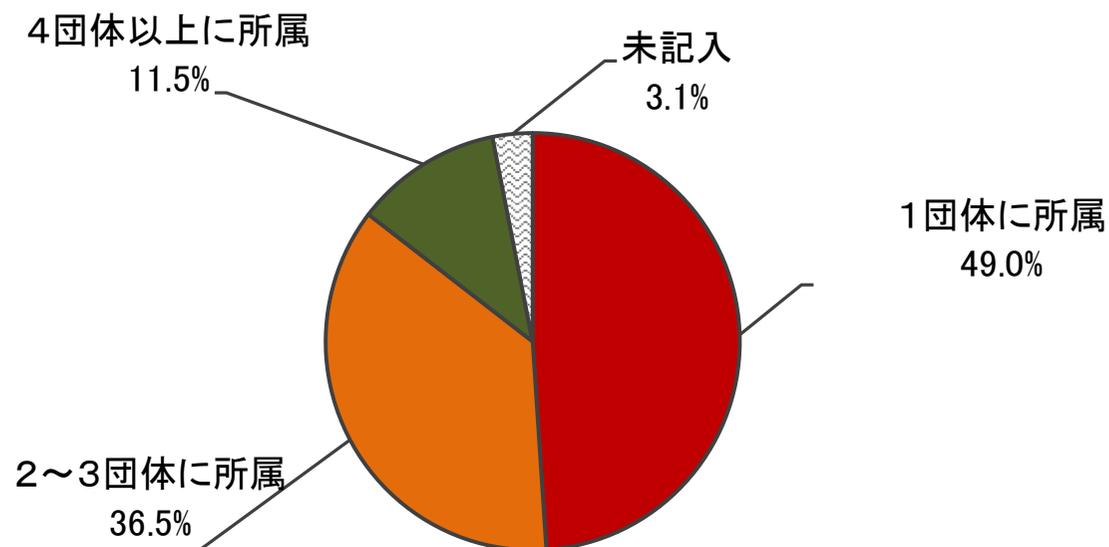


回答者の3割強が「月に2~3日」活動しており、同じく約4割が「週に1日から3日」活動している。



問4 ご回答の所属団体を含め、活動するすべての福祉活動や地区役員等を含む
団体数を教えて下さい。〈1つに〇し、複数の場合、団体名や地区役員名を記述〉

(N=96)



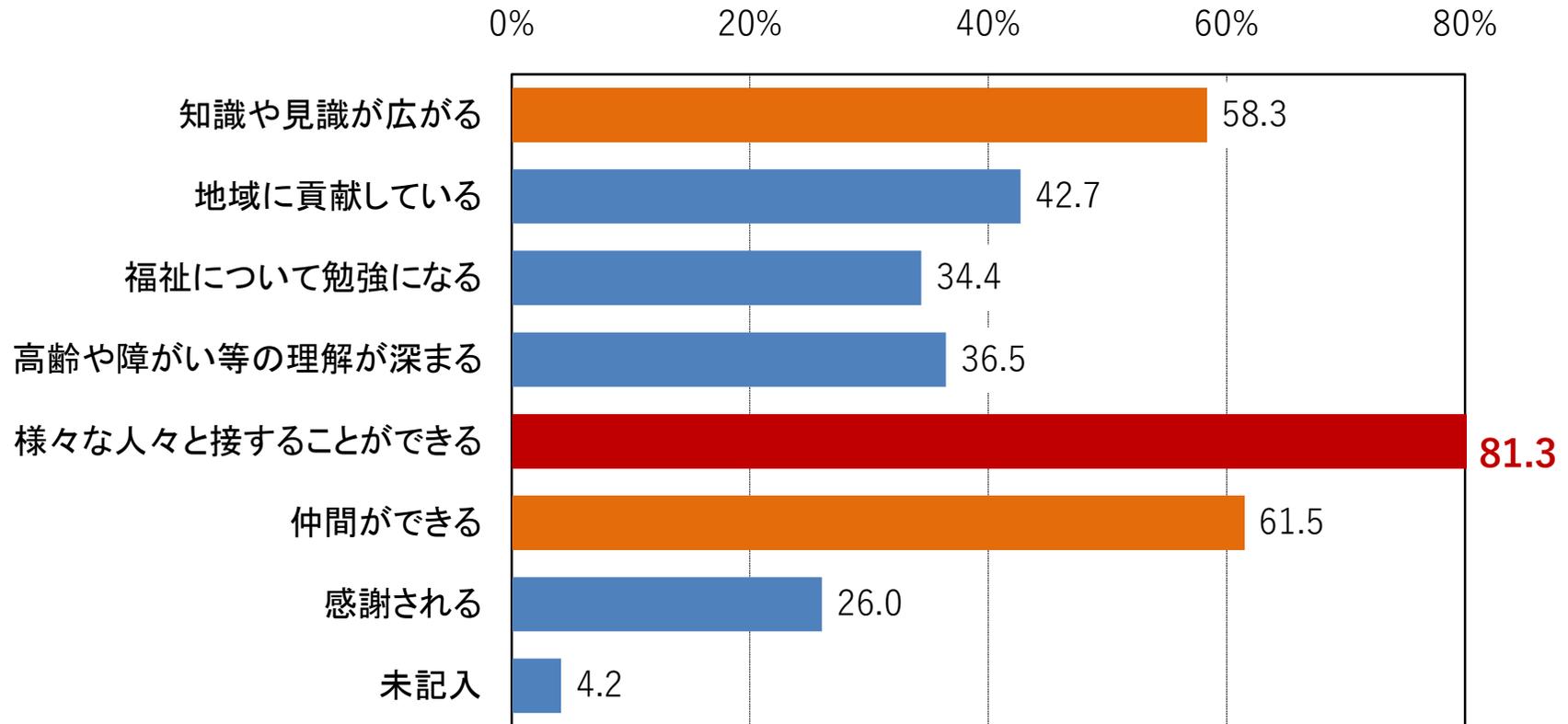
(n=96)

○ 約半数が2団体以上に所属(複数活動)している。



問5 ボランティアや福祉活動（地区役員）を通じて良かったことは何ですか。
〈該当するものすべてに○〉

(N=96)



「様々な人々と接することができる」が8割以上で、ボランティアや福祉活動が、**新たな関係を生み出していることが考察される。**



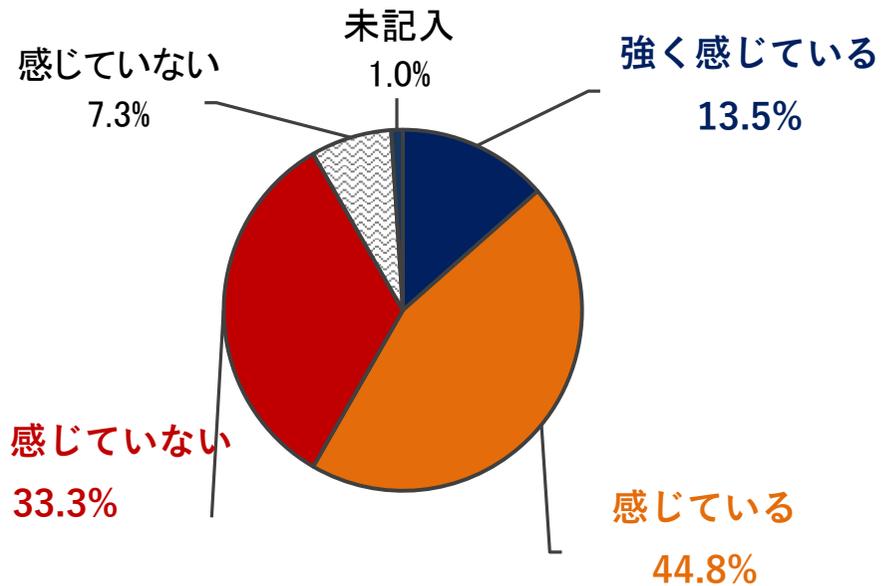
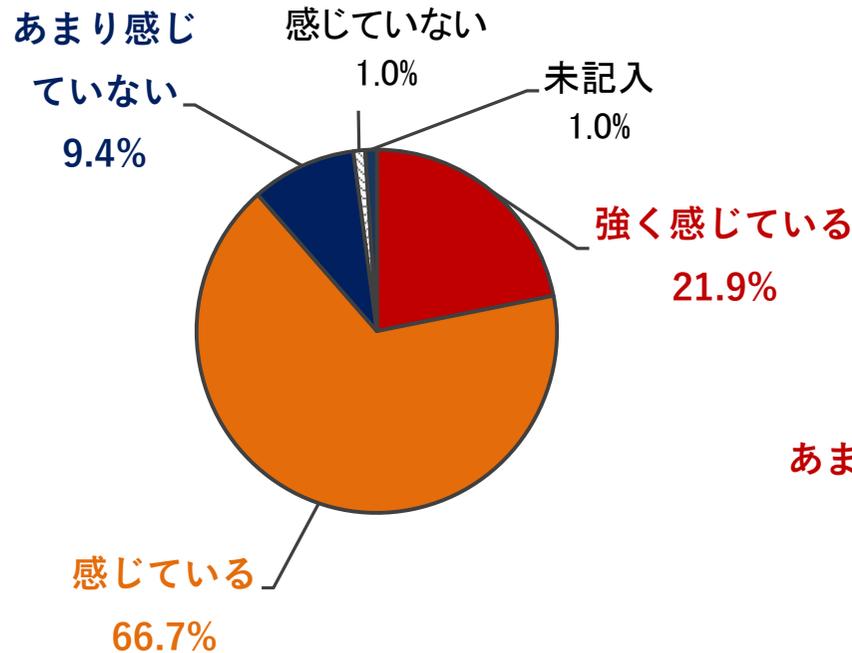
問6 ボランティアや福祉活動（地区役員）について、どのように感じていますか。



【やりがいについて】

(N=96)

【負担感について】



- やりがいについて、回答者の約9割が「強く感じている」または「感じている」を選択している。
- 一方で、負担感について、回答者の約6割が「強く感じている」または「感じている」を選択している。
- 回答者別にみると、福祉ボランティア活動者及び給食ボランティアの9割以上とサロン活動者の5割が、やりがいについて「強く感じている」または「感じている」、負担感について「あまり感じていない」または「感じていない」をそれぞれ選択している。
- 一方で、自治会役員や民生委員の約9割が、やりがいについて「感じている」が、負担感も「感じている」をそれぞれ選択している。



☒問 7 ～ 13

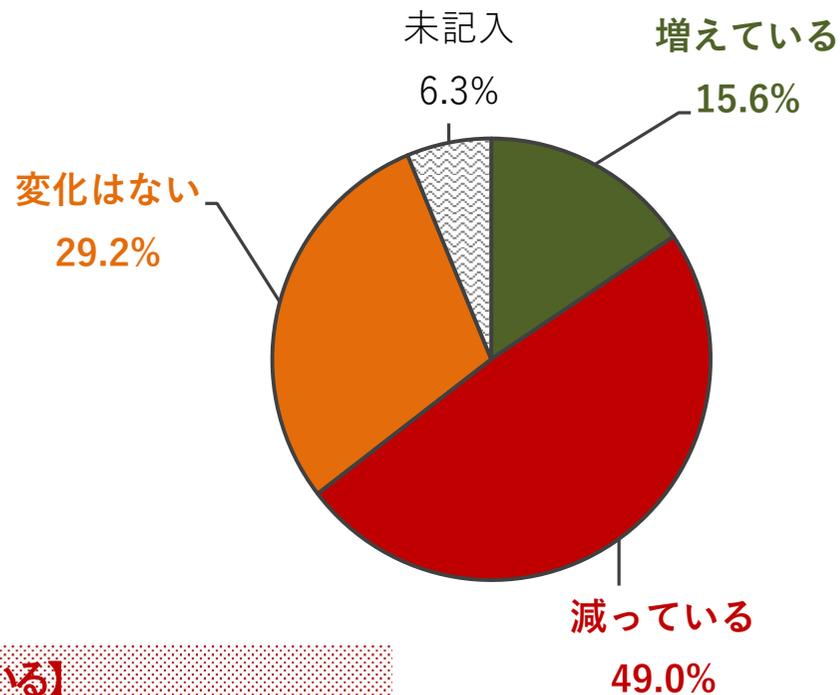
ボランティアや福祉活動を通じ 感じる課題や要望

- ☒ ボランティアや福祉活動の維持発展に向けた活動のサポートのあり方を検証する。

問7 ご回答の所属団体の活動について、近年の活動量はどのように感じていますか。

<1つに○をし、状況や理由等を具体的に記述>

(N=96)



【減っている】

- ・コロナで活動できない。
- ・コロナ以降活動中止中。
- ・コロナでイベントが中止。
- ・コロナで活動が制限されている。
- ・活動がなくなり解散した。

【増えている】

- ・地域の関わりが増えた。
- ・4月に組織発足。
- ・民生委員になった。
- ・新たに会長になった。

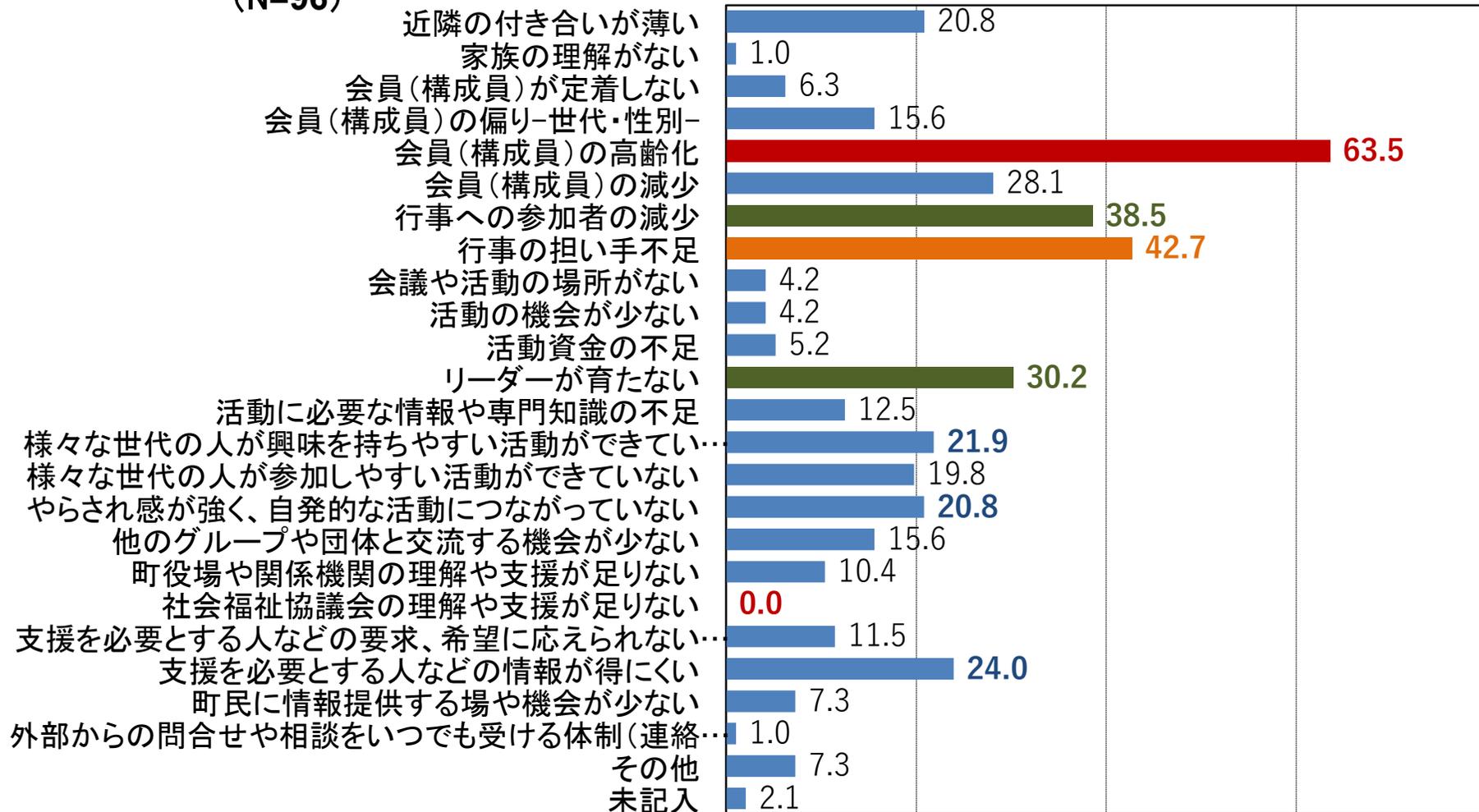


問8 ご回答の所属団体が活動を行う中で困っていること（課題）は何ですか。

<7つまで○>

(N=96)

0% 20% 40% 60% 80%

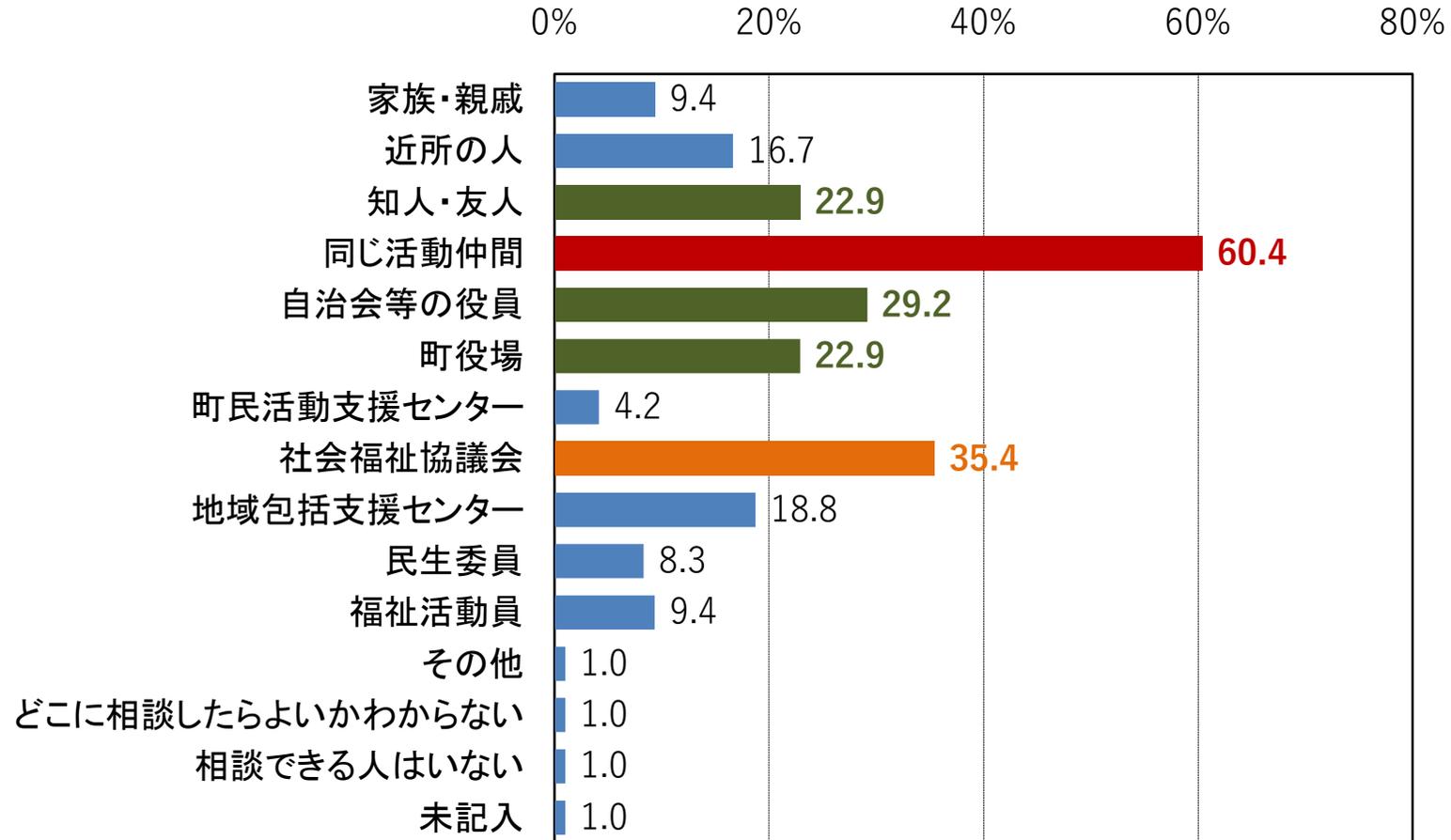


回答者別に見ると、「やらされ感が強く、自発的な活動につながっていない」は、自治会や民生委員が、「様々な世代の人が興味を持ちやすい活動ができていない」は自治会やサロン活動関係者が、「支援が必要とする人などの情報が得にくい」は民生委員が多く、地区内の活動の難しさが考察される。



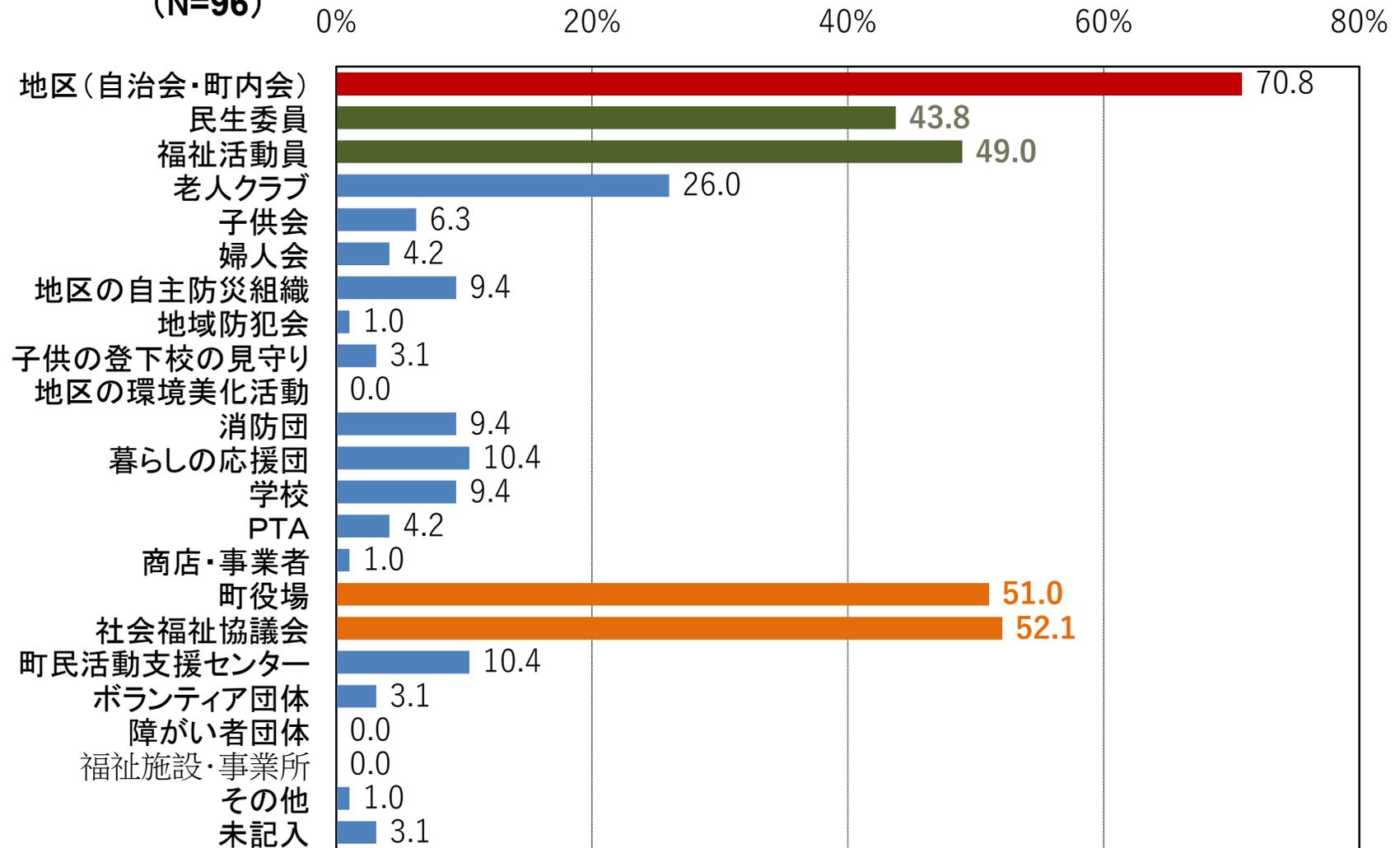
問9 ボランティアや福祉活動（地区役員）をする中で困ったときの相談相手について教えてください。 <3つまで〇>

(N=96)



問10 ボランティアや福祉活動（地区役員）にあたり連携が必要と思われる他の組織団体は何ですか。〈5つまで〇〉

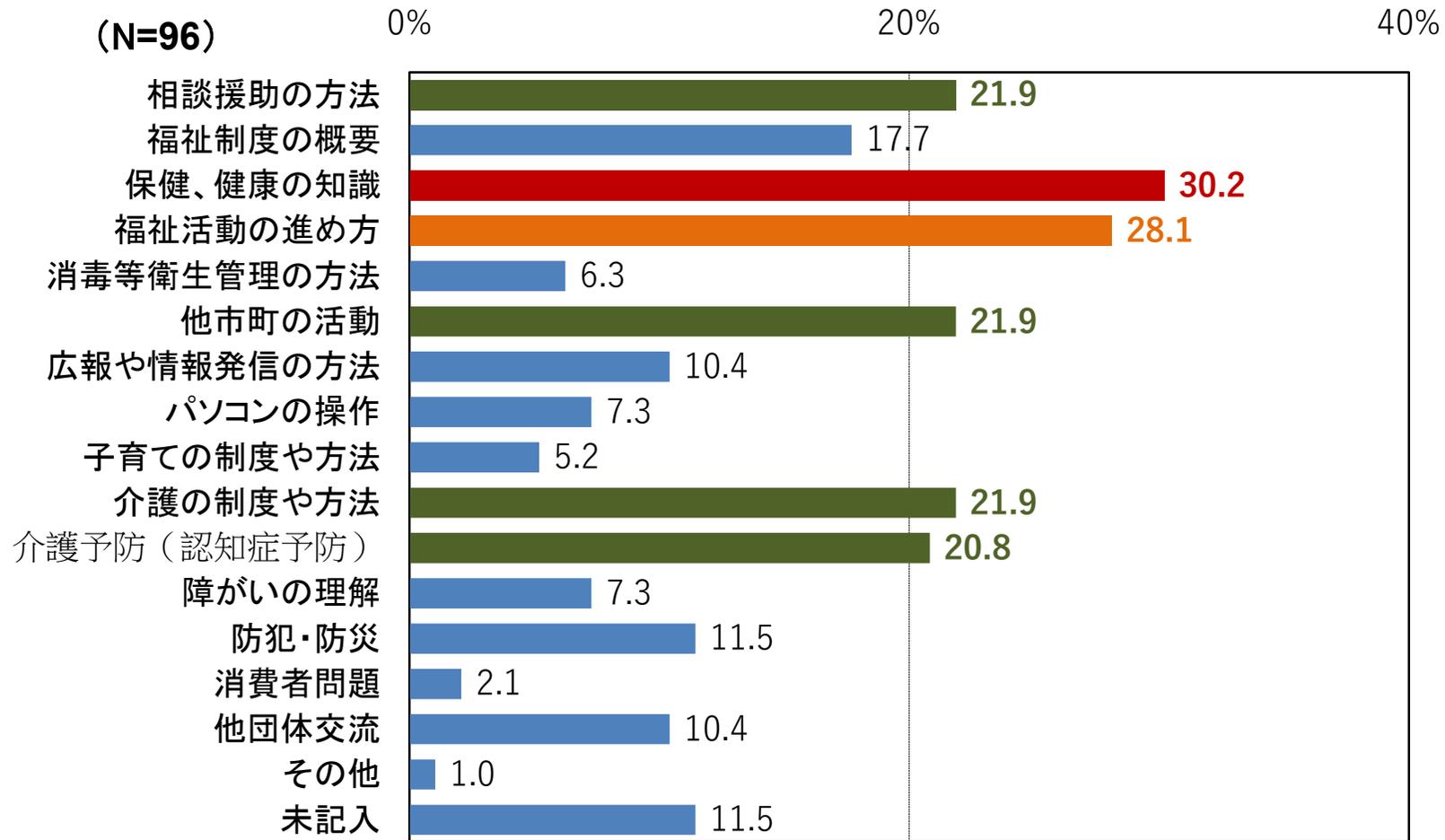
(N=96)



〇回答者別に見ると、「福祉活動員」との連携について、自治会や民生委員、サロン活動者等、地区内で幅広く連携が求められている。



問1 1 ボランティアや福祉活動（地区役員）をすすめていく上で、受けてみたい研修は何ですか。〈該当する項目すべてに○〉



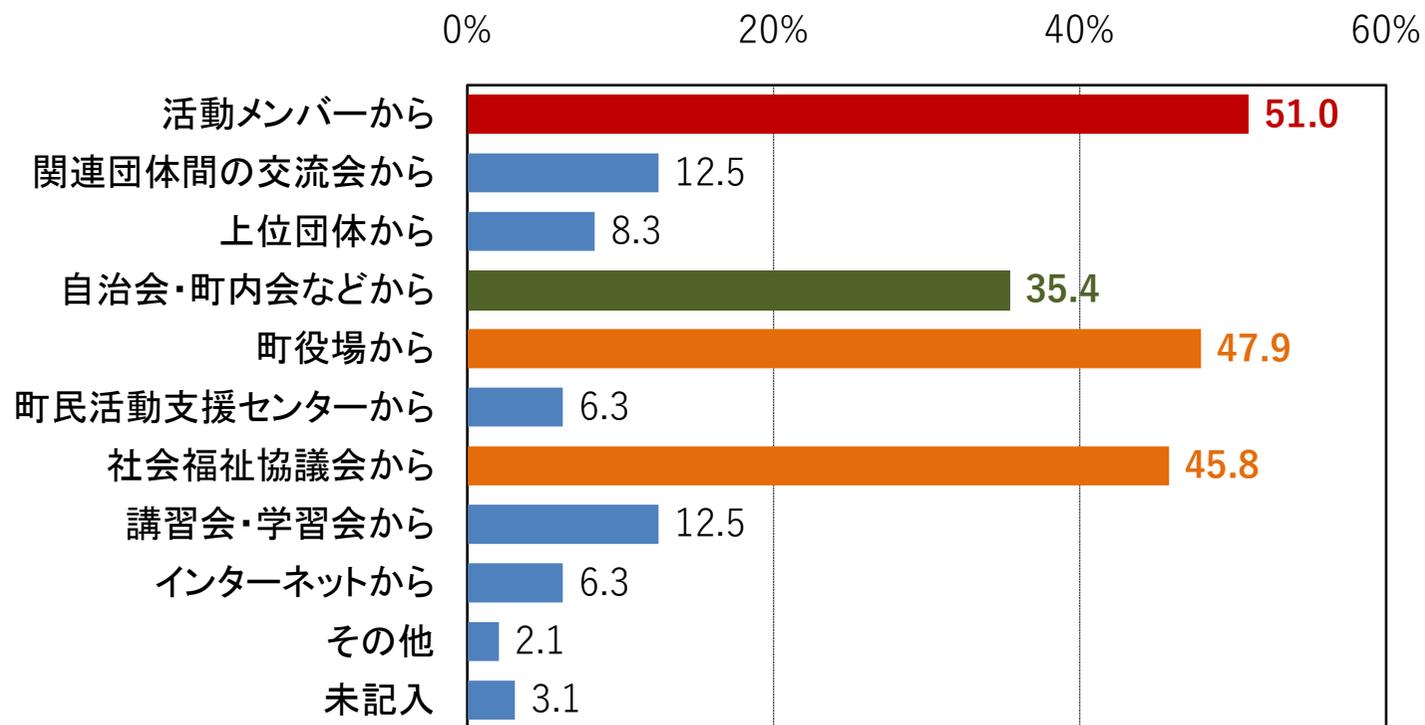
○回答者別に見ると、「福祉活動の進め方」、自治会や老人クラブ等で、「相談援助の方法」は民生委員の他、自治会やサロン活動者で、「他市町の活動」は、自治会やサロン活動者、民生委員でそれぞれ回答が多く、地区内での福祉活動への関心や課題を抱えていることが考察される。



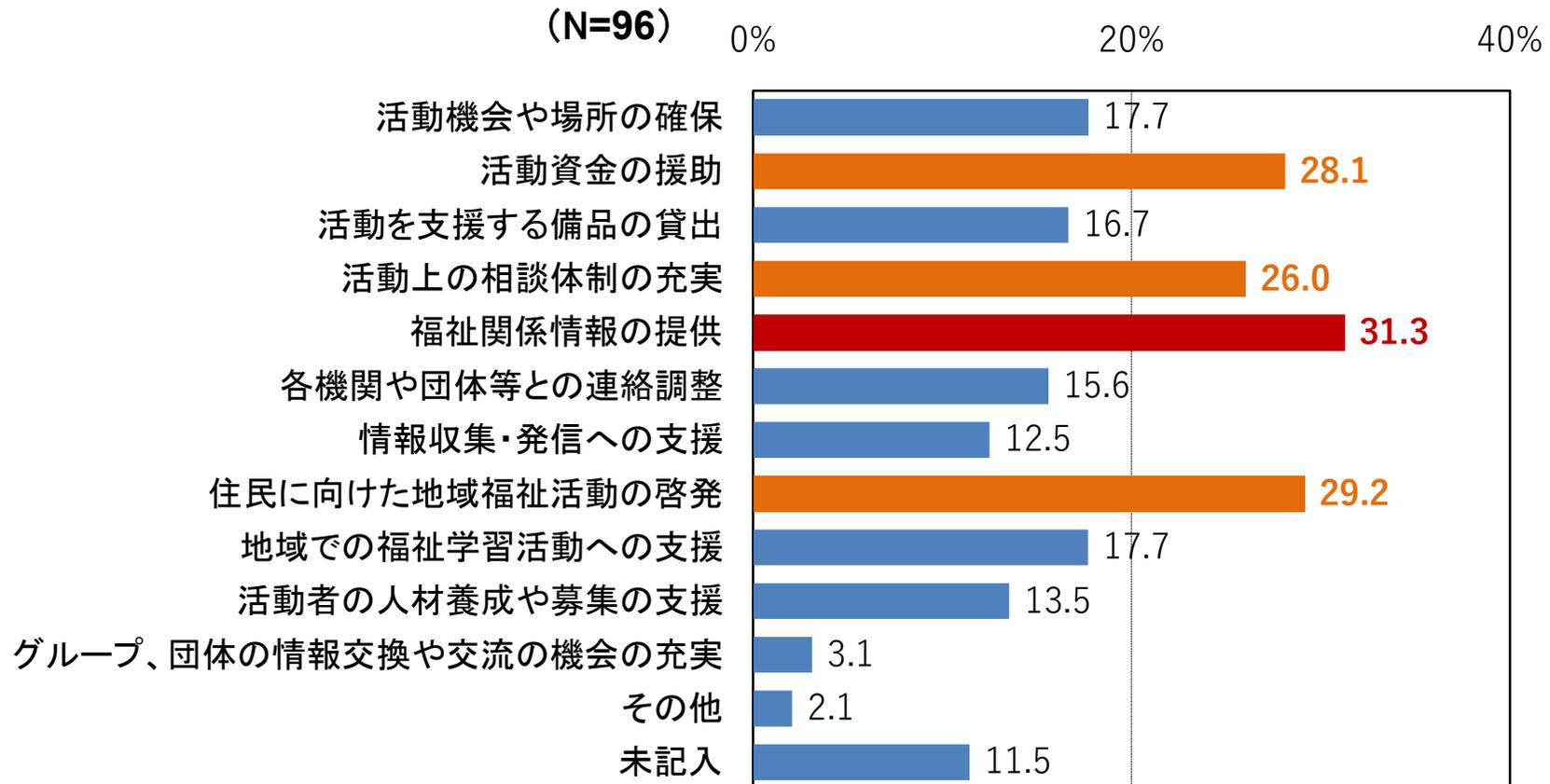
問12 ボランティアや福祉活動（地区役員）に必要な情報を、どこから得ていますか。

<3つまで〇>

(N=96)



問13 ボランティアや福祉活動（地区役員）を行っていく上で、社会福祉協議会に期待することは何か。〈該当する項目すべてに○〉



○回答者別に見ると、「福祉関係情報の提供」は自治会や老人クラブ、サロン活動者、民生委員で、「住民に向けた地域福祉活動の啓発」は自治会やサロン活動者、民生委員で、「活動上の相談体制の充実」は自治会の割合が高くなっている。



☒問 14～17

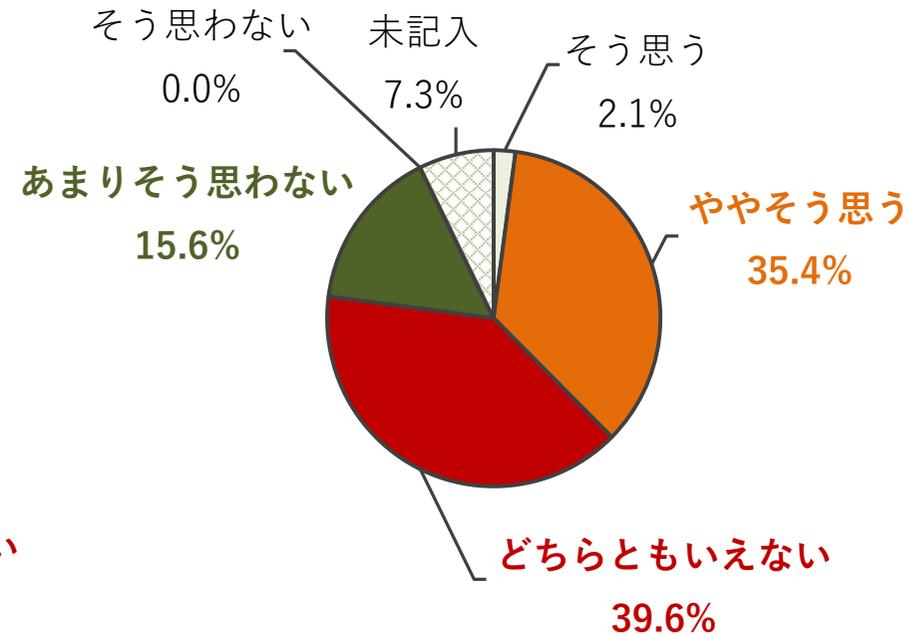
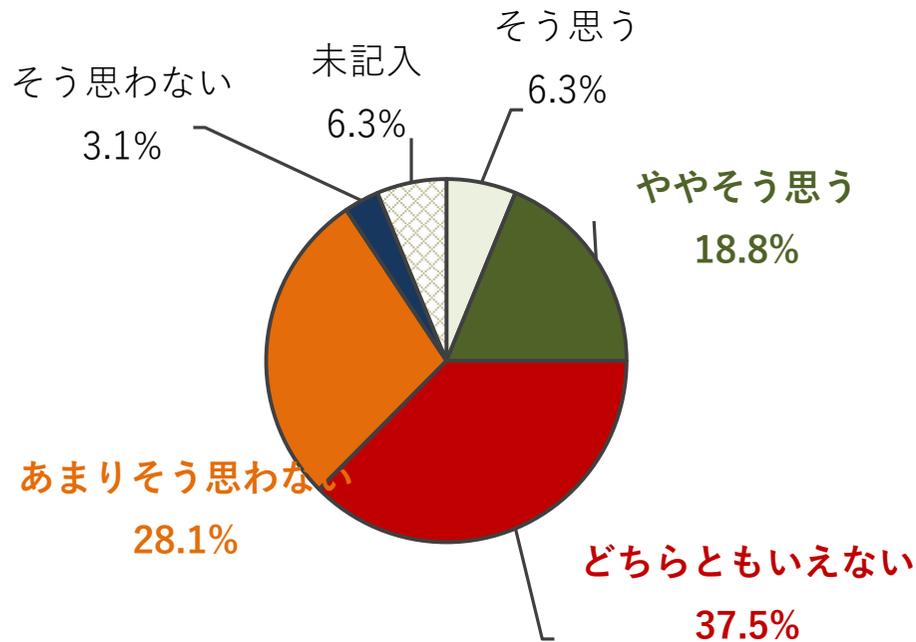
地域福祉活動を進める環境と日常生活 を通じ支援対象者や困りごと

- ☛福祉活動の前提となるニーズや早島町の福祉の土壌に対する活動者の認識を把握し、活動分野や進め方を検証する。

問14 地域福祉をすすめていくうえでの「地域の福祉力」（地域での支え合いなど）に関して、早島町の【A】～【G】の状況について、どのように感じていますか。
 <【A】～【G】のそれぞれについて、1～5から1つずつ>

(N=96)

【A.福祉を自分の問題と感じる住民が多い】 【B.住民や団体が積極的に活動している】

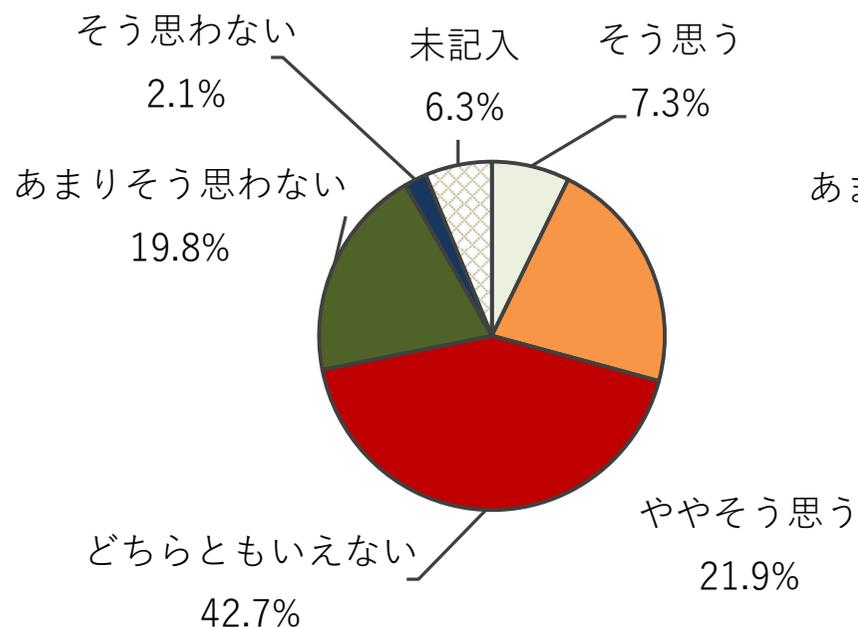


(n=96)

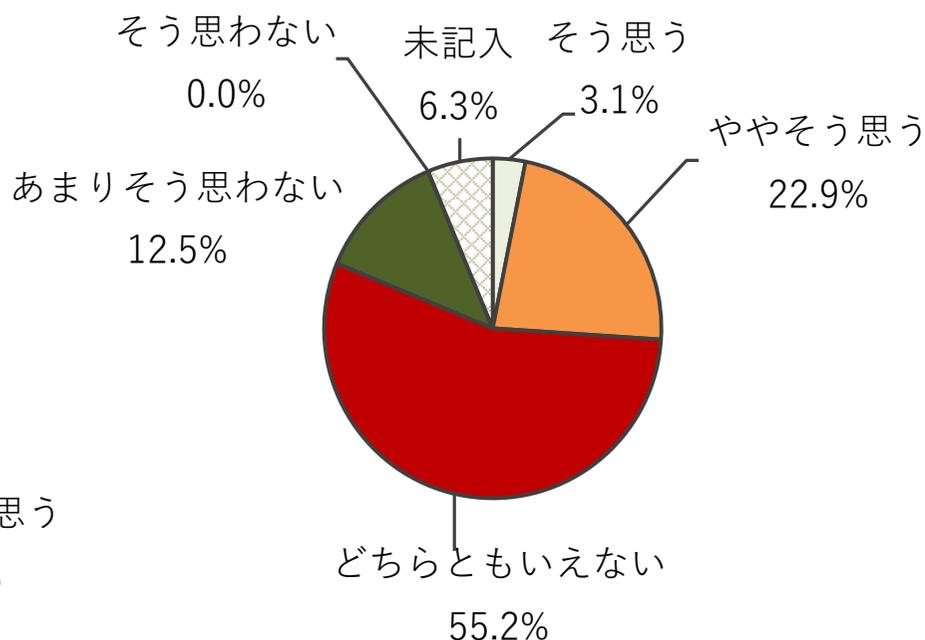
問14 地域福祉をすすめていくうえでの「地域の福祉力」（地域での支え合いなど）に関して、早島町の【A】～【G】の状況について、どのように感じていますか。
 <【A】～【G】のそれぞれについて、1～5から1つずつ>

(N=96)

**【C.地域全体の課題として
 取り組まれている】**



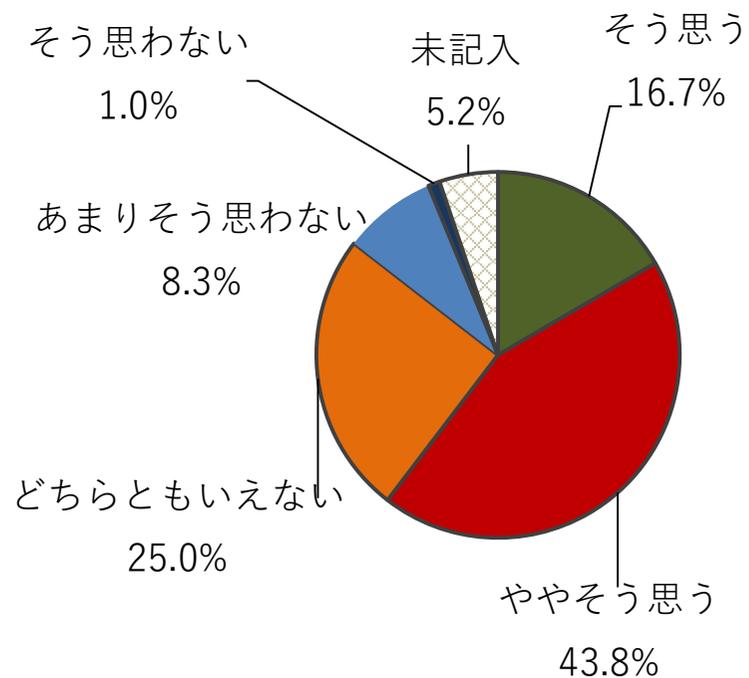
**【D.関係機関等との協働が
 うまくいっている】**



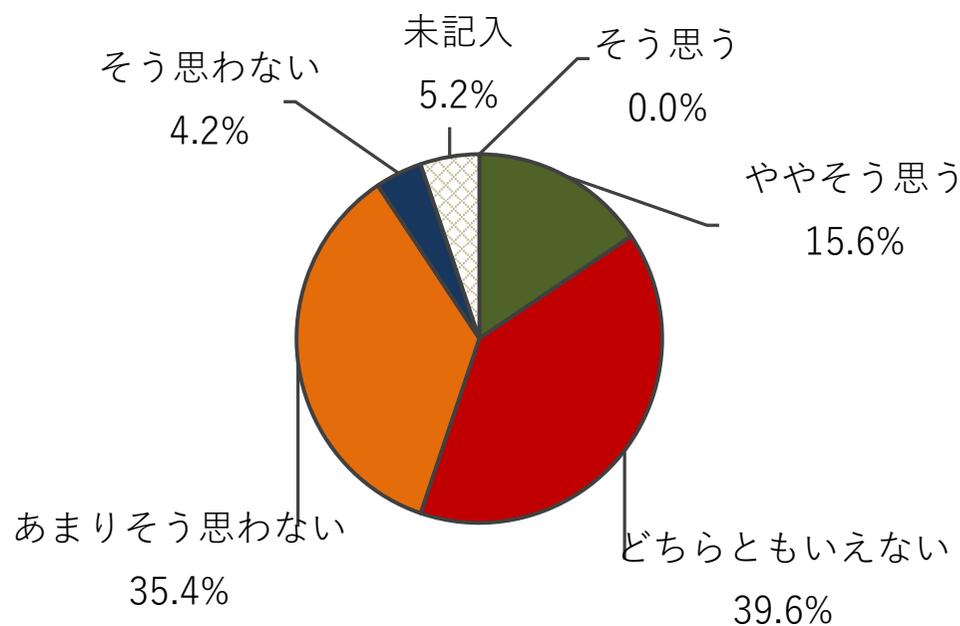
問14 地域福祉をすすめていくうえでの「地域の福祉力」（地域での支え合いなど）に関して、早島町の【A】～【G】の状況について、どのように感じていますか。
 <【A】～【G】のそれぞれについて、1～5から1つずつ>

(N=96)

【E.活動を担っている人の負担が大きい】



【F.地域福祉には無関心な住民が多い】

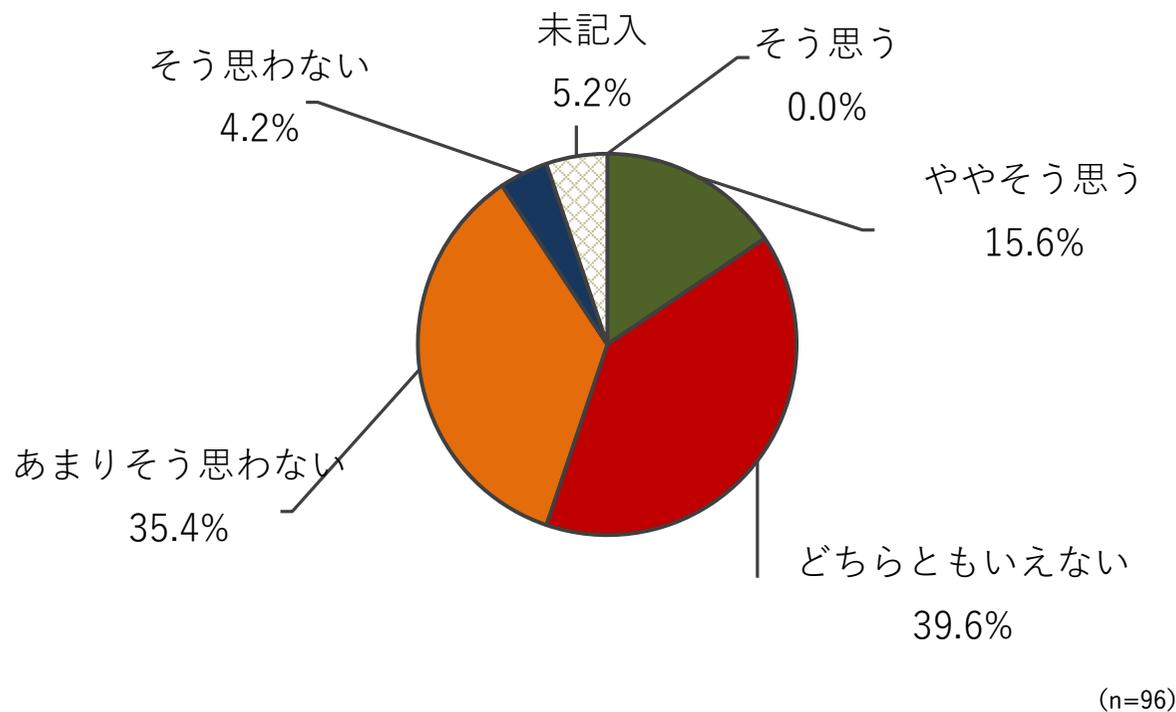


(n=96)

問14 地域福祉をすすめていくうえでの「地域の福祉力」（地域での支え合いなど）に関して、早島町の【A】～【G】の状況について、どのように感じていますか。
＜【A】～【G】のそれぞれについて、1～5から1つずつ＞

(N=96)

【G.共生のまちづくりの意識を持つ人が多い】

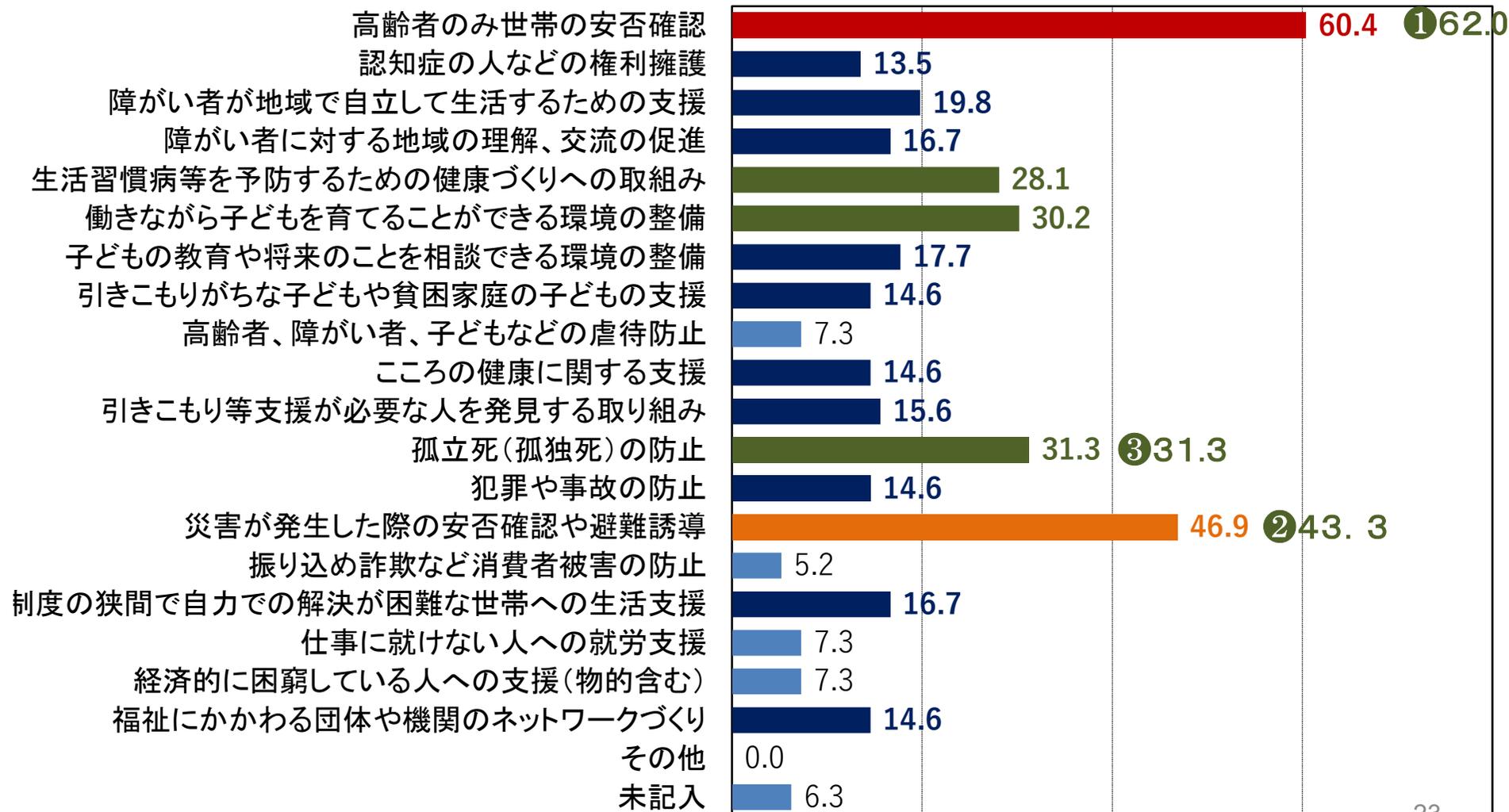


問15 地域の福祉を充実するために、早島町で優先的に解決しなければならない課題はありますか。〈5つまで〇〉

(N=96)

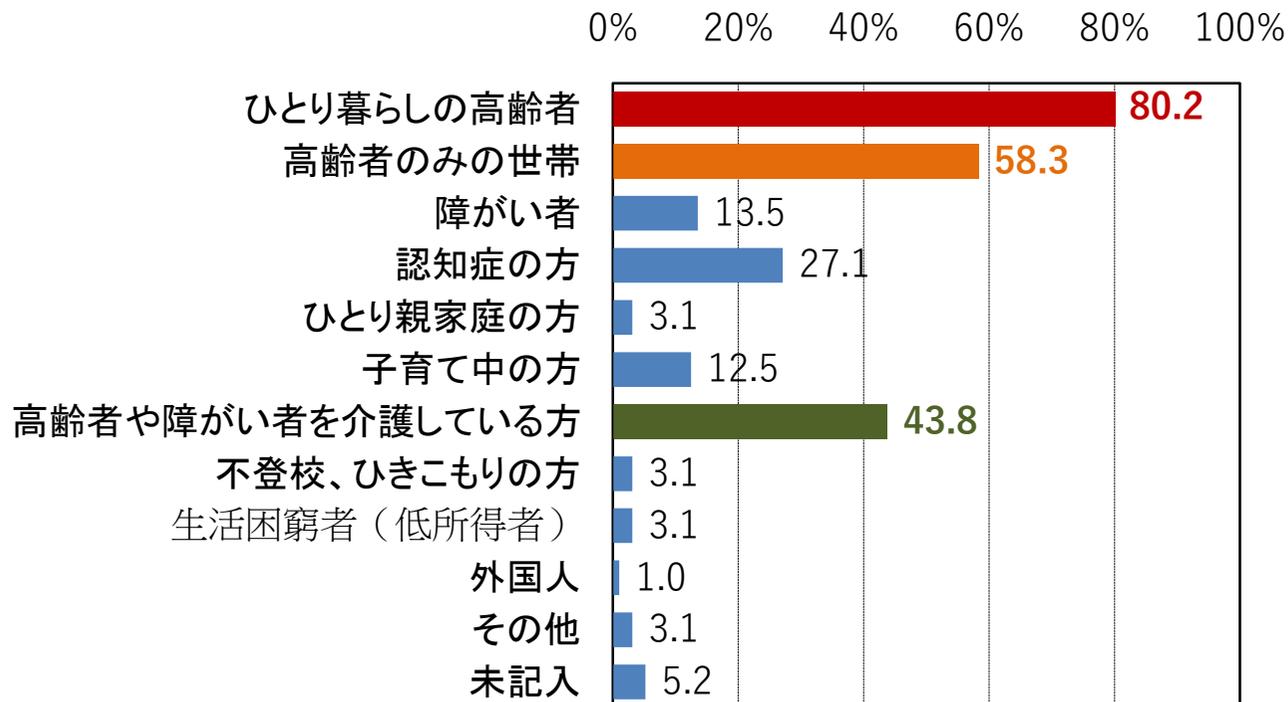
住民アンケート(N=450)

0% 20% 40% 60% 80%



問16 お住まいの地区の中で特に支援が必要と思われる方はどんな方々ですか。〈3つまで〇〉

(N=96)



「ひとり暮らし高齢者」や「高齢者のみの世帯」など、**地区の中での高齢者支援を必要とする回答割合が高い**。次に介護者（「高齢者や障がい者を介護している方」）が続く。



問17 日々の活動やお住まいの地区での生活を通じ、感じる困りごと（「会員（構成員）が抱えている不安や近隣住民に係る生活課題）について、お聞かせください。〈自由記述〉



① 地区内の担い手不足と個人情報の壁

- ☒ 地区の ボランティア活動の不足で先行き不安。
- ☒ 自治会等の 役員の担い手が少なく、地域での活動参加者も少ない。
- ☒ 高齢者が多く、町の役員など受けるものは日中仕事があり、平日の活動は難しい。
- ☒ 福祉活動員など役を引き受ける人が少ない、期間が終わると協力的でない。
- ☒ 現在の役員がすでに高齢者であり今後の後継者不足に悩みそうです。
- ☒ 活動の一部は 担い手が固定化し、新陳代謝が進まず、存続が難しくなっている。
- ☒ 70歳以上の方が増加、役員ができなくなる為、今後の部落活動が心配である。
- ☒ 個人情報の関係からか定期見守りを嫌う人もいるようです。どうすればよいか？
- ☒ プライバシーの保護が問題となっている 昨今、どこまで手を差し伸べられるか、本当に喜んでもらえるか不安です。
- ☒ 認知症とみられる方の家族が、近隣には隠そうとし認めてなく、支援がしづらい。 ただ見守りをしている。
- ☒ 個人情報の開示がないので、実情が把握できていない。
- ☒ 住民の生活問題について、どこまで踏み込んだらいいか判断がつかない時が多くある。



②地域の人間関係の希薄化と'ぼやける'援助対象者

- ☒ 高齢者または高齢世帯の方は、地域では困りごと、悩みごとを地域の人には言えない、伝えない、雰囲気があり把握に苦慮する。
- ☒ 近所付き合いが希薄になり顔を見ると挨拶することさえなくなっている。きっと高齢者世帯は「人に迷惑をかけないように」「できることは自分たちで」「我慢しないと」「世間に笑われる」など、とても無理をされているのでは?と思います。
- ☒ 地域住民の高齢化が進み、人々のコミュニケーション不足が目立つ。地域コミュニティの活性化により、助け合い等地域のつながりが必要。
- ☒ 子供会の行事、ラジオ体操、一斉清掃など参加人数がどんどん減りつながりが希薄になっているのが現実です。ご近所意識がなくなっているのでしょうか。

- ☒ 高齢化&地域の繋がりが少なくなっていくのが心配。将来サロンなどを出来ていけるのか。
- ☒ 8050問題で50歳代の男性の引きこもりの方がいると聞いた。
- ☒ 引きこもりで一人暮らしの人(60歳位)で近所付き合いもなく回覧板も回らない人がいる。
- ☒ 独居の地区の実情がわからない。最近難しくなった。児童、子供に関わることはわかりにくい。通学時、発達障がい児童を見るが、学校と地域のつながりがないので踏み込めない。
- ☒ 社会生活の変化からか、他人のプライバシーに首を突っ込まない他人には無関心が多い。



③生活支援の課題(買い物及び移動)

☒ 私の地区は、今のところ高齢者がお元気で動かれています。最近車に乗らなくなった方がお買い物に不便さを感じているとのこと。団地内はバス、タクシー、とくし丸等、意外と慣れれば便利です。でも自分で歩けること、健康であることが一番です。

☒ 高齢者の方で車の運転ができない方は、買い物や病院に行く時はタクシーを利用している。

☒ 我々の団地は、中庄へ日々の買い物へ出かけている。

☒ コミュニティーバス停が遠く特に高齢者の女性には利便性が悪い。

☒ コミュニティーバスのバス停が団地の下にあるため不便。

☒ 高齢者の自動車免許証返納時の買い物等が心配。

☒ 銀行や農協、郵便局等を利用するのにコミュニティバスの停留所が近くになく、不便である。停留所の数を増やしてほしい。(南回り: 該当者3~4名)

☒ 高齢者が移動する場合の手段の確保が今後必要になると思われる。

☒ 巡回バスよりも個人宅を回るタクシーなどの買い物サービス、ホームセンター、ドラッグストア、などタクシーに乗るのは一人では緊張するので、乗り合わせを希望されている方がいます、金額も1回100円程度希望。

☒ とくし丸の移動スーパーには感謝しているが、もう少し価格がや受ければ良い。



④活動のしずらさ(見守り)

- ☒ 日頃の見守り活動は重要だと思うが、特別な用事もないのにそんなに行けない。
- ☒ 近所で出会った時はなるべく話しかけるようにしているが、それ以外の人は身内の介護状況や近所の人たち(グループets)からの情報をなるべく聞くようにしている。強制はできない。
- ☒ 一人暮らし高齢者が増えてきている。過去に孤独死のケースが数件あったが、具体的な対策が取られてない。向こう三軒両隣の精神を活性化しようとしてきたが現実にはむづかしい。自治会でコミュニケーションの活性化を行っているが効果は薄い。
- ☒ 高齢者の増加及びケガや病気で入院等の増加。
- ☒ 高齢者の安否が気になる。



- ☒ 元気なころは楽しく付き合っているけど、病気になるったり、けがをされた時に援助しようと声掛けしても遠慮される。いつまでもフランクに付き合いたいが、今年は福祉活動員として頑張ってみようと思う。
- ☒ 出来ることから始めよう(溝の掃除、草抜き)。困りごとに気軽に相談に乗れるよう、機会をつつて外へ出て来てもらい、話ができるようにしたい。
- ☒ 高齢者の方の見守り活動について、民生委員、福祉活動員や自治会役員等がしてくださってるとは思いますが、実態にはどうなのか?直接かかわってないので何とも言えませんが。
- ☒ 一人暮らしの高齢女性宅には娘さんが時々様子を見に来ている(地域の特性かもしれませぬ)。

☒ 昼間は仕事で留守になる家庭も多く、自治会の行事でもないと、ほとんど顔を見ることもない。また、顔を知らないという実態があります。深く入り込むことなく、気軽に声をかけ等を心掛け、「誰かが自分のことを気にかけてくれている」という安心感を持つようと願っているのですが、とにかく交流が出来にくい。

☒ 高齢者の方から SOSを待つばかりではダメで、時々地域内を散策しながら気を向けることが必要。

☒ 共稼ぎと高齢化により、行事への参加者が年々減っている状態なので、少しでも多くの人に参加して頂くために、連絡を密にし広報していきたいと思っておりますが、福祉活動員1年目コロナの影響により初めの一歩が踏み出せず、何をしたいのか何から始めるかわからず 困惑している。

☒ 民生委員として活動を始めるときのコロナウイルス感染予防のため、近所の方とお話が中々できていません。もう少し活動ができるようになるまでは良い回答が出来ません、申しわけございません。

☒ 家庭内に問題がありそうと感じても、相談されない限り、把握が難しい場合があります。このような場合包括支援センター等へ情報提供と相談を兼ね連絡しています。

☒ 新型コロナの影響が大きく、自分も守り、他者にうつさなように考えると、どこまですべきか判断しかねる。



⑤行事参加者の減少

- ☒ 介護活動予防など自分に無関係と思っている高齢者が多い。
- ☒ 各種 町内イベントの参加者が少ない。
- ☒ 参加者減少、男性参加者ほとんどなし、次の担い手に不安(特にサロン)。
- ☒ サロンや給食サービスの 参加者が固定されていて、普段あまり地域の交流が出来ていない高齢者の方に参加してほしいが難しい。

⑥その他

- ☒ 自分自身が 年を取り、ここ数年体調を崩すことが多いけれど、迫っている老いに対し、しなければならぬ山積みする事柄に 気力、体力も持たずというのが老いたと実感する。
- ☒ この頃、皆さんのために頑張りましょうというより、自分をどう保つかという状況になっている。



- ☒ 一人暮らしの方が多くなっていますが、なかなかサロンに参加されない方が多い。イトピアの場合は、イトピア自治会のサロンもあり、早島サロンと両方行うことが厳しく感じることもある。
- ☒ 1対1では話が弾み親しくなれるが、サロンや体操等誘うが参加されず、一定の人たちで活動が成り立っている。どのように声掛けしたら参加してもらえるのか。外に出たがらない人は、隣近所との付き合いも挨拶程度の人たちも多い。



- ☒ 柵のない用水が多く、実際に 落ちる人もおり、高齢者等特に夕刻の散歩の際など心配である。

☒問 1 8

1次計画の課題への対応策や 社会福祉協議会へのご意見（ご提案）

- ☛福祉活動の前提となるニーズや活動要件、手段に関する認識を把握し、活動の進め方を検証する。

問18 早島町社会福祉協議会へのご意見やご提案等があれば、お聞かせください。〈自由記述〉

①社会福祉協議会への意見や要望

- ☒ 夏のボランティア体験について、受け入れ側の事情もあるが高校、大学生は各自の都合のつく範囲で継続的に活動できないか？体験といった一時的な活動ではなく定着の機会としたい。パソボラとしては、事前連絡してもらえれば、土曜日など受け入れ可能と考えます。
- ☒ 老人問題を考えるうえで、若い人が参加できる環境づくりが大切。
- ☒ ボランティア活動に参加を呼びかけているが、継続していくうえで無償でいいのか、各個人の考えが違うので再検討する必要があると思う。
- ☒ ボランティアとは？その思いや考え方が各自違い温度差があります。
- ☒ 「ほっとプラン」2次計画策定にあたって、早島町(健康福祉課、地域包括支援センター)施策と競合する部分等考慮し、十分連携したものとされたい。
- ☒ 福祉活動で住民参加を呼びかけるは、掛け声だけでは無理で、仕組みとルール作りが必要。
- ☒ ケアマネさんの支援の中でわかってくる地域の高齢者の情報は協議会としてすべてについて外(福祉活動員)に。できることはされているのか。福祉職が関与していけば援助者のリスト作成は前に進むのではないか。ケアマネの平素のケアプランの作成の中で連携をはかっていけないか。
- ☒ 社協の存在を知ってもらうこと。ゆるびの舎、いかし舎、公民館、は知っていても「オアシス早島」はあまり知られてません。



社会福祉協議会とは？



☒ コミュニケーション不足無くすための手助けをしてほしい(高齢者及びアパート入居者等)。

☒ コロナ禍において自治会活動を行うための、具体的感染防止活動の方法及びその為、必要なものの購入方法斡旋等、積極的具体的にして欲しい。

☒ 先回の策定委員会でも話しましたが、町内の若い人や町外から移住されてきた人たちに今後の福祉への取り組み・要望を聞いてみてください。

☒ 講演会の開催等自主活動への協力連携どのような応援ができるか。課題や意見の抽出。

☒ 自治会活動の指導援助、教育、講習

☒ 最近ではマスク作りのボランティア、フードバンクなど 参加できそうな活動についての情報が欲しい。他にもあるのでしょうか。機会があれば役立ちたい(個人的に)。

☒ 役場の窓口や病院の受付でのノートテイクの補助ならできると思いますが、交渉(仲立ち)の方をお取りいただいたらうれしいと思うのですが、勝手に申し出るのも迷惑だと思ってます。

☒ それぞれの方々の今までの 人生の過ごし方が少しでも生かされるように活動できる場を増やして欲しいです。社協が窓口になってしっかり発信してください。

☒ 町役場と社会福祉協議会の連携強化による細かい福祉活動の推進。





- ☒ 一般住民に対し、社協としてどんな具体的なサービスができるか啓蒙して欲しい。
- ☒ 6月に活動の手引きを頂き、常々知識が得られありがとうございました、特に自治会の年齢構成は興味があった。本当に高齢化が進んでいるんだなと思った、広報などに載せてみんなに知ってもらってはどうか（早島町内地区別福祉統計一覧表）。
- ☒ 今年はコロナのため活動をかなり制限されています。3密を避けての方法を考えますが、他の地区はどのように活動されているのか知りたい。
- ☒ 福祉活動員の継続的交代（三年で交代するが事業の発展がもとに戻る）。



- ☒ 出来ることをできるようにちょっと力を少しだけ入れて、生活支援(各種)を充実させてほしい。
- ☒ 他の地区の活動を知りたく、交流会のような形では無く、2～3地区の方と話す場が欲しい。
- ☒ 今は大きな問題はないが、何か問題が起きた時には相談や解決策の援助をして欲しい。
- ☒ 助成金の増額をお願いしたい（会費の徴収せずまた自治会からの補助を受けておらず社協よりの助成金のみで運営）。
- ☒ プレイルームに置いてあるマットを使わせていただいておりますが、最近落書きがあり気になります。

② 社会福祉協議会へのメッセージ

- ☒ 仕事をしながらの 自治会役員(活動)をしています。分からない事が多いですが、これからも活動の支援宜しくお願いします。
- ☒ 頑張ってください。町長さんや町議員さんが、もっと地域の中に入って考えるべき。社協さん任せで本当に良いのか？
- ☒ 社会福祉の人はいつもよくがんばっている。
- ☒ 自分も10年以上、社協と福祉のあるところで信頼関係を保っている。
- ☒ 早島の福祉は大変良いと思います。いつも協力して頂き感謝しております。
- ☒ 町民の意見をよく聴取され、積極的に活動されており、大変感謝致しております。これからも今までどおり、民意に基づき企画し、果敢に実践をしてください。

- ☒ 私たちの運営するクラブでは、社会福祉事務局の方がに手伝っていただいております。パソコンやコピー等助かっております。ありがとうございます。
- ☒ 私は社会福祉協議会すべての役員を20年以上していますが、いろいろなことで職員の皆さんが頑張っていると思う。
- ☒ 社協の職員さんたちは相談事等を 親身になって聞いてくれアドバイスをもらって助かっている。今後ともよろしく申し上げます。



③その他(福祉施策への意見や要望他)

☒当若宮団地では入居40年以上の家庭が1人減り2人減り無人化住宅となっているケースが多い。社会福祉政策としては無縁と思えるが、この無人化した住宅をリフォームし若い夫婦に提供する方法はないか。

☒いろいろな相談が出て来てると思う。包括センターと社会福祉協議会の窓口を一本化してほしい。

☒以前会社の後輩が住みたい地域の年配の方から「よそ者は黙ってろ！」と言われたと聞いたことがある。これでは協力する気になれない。

☒70歳近くまで仕事をし、今度は少しでも恩返しができたら、自分のできることが役立てたら、それらの積み重ねが自分のこれからの生きざまになるのではと、仲間との触れ合いを求めている方もいます。

☒サロンのお茶代(参加費)が発生するので準備しづらい。参加者が少ないのにイベントを考える満足度がない。参加者より担い手の数が多く感じる。

☒人とのかかわり方が苦手で、特に「知らない方と話をするなんて…」と言われた方が勇気を出し、「少しでも人の役に立てれば」「自分自身の変化にも」と、応援団に参加されています。高齢者団員にとって、応援団との仲間との『おしゃべりタイム』がとても心を癒してくれるようです。

